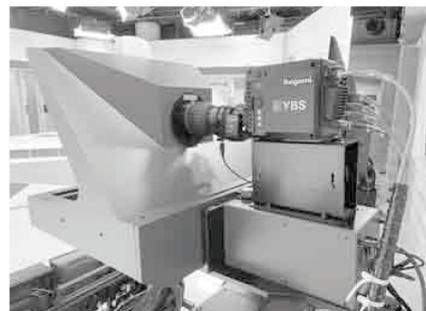


# 山梨放送のニューズスタジオ 池上通信機がカメラなど納入

## 操作性や信頼性、耐久性が評価

池上通信機は、山梨放送のニューズスタジオ設けの更新に伴い、4K/HDマルチパーパスカメラ「UHL-43」2式、3G対応16ビットフルデジタルカメラシステム「HDルカマラシステム」HD K-97A 2式、3Gネイティブ4Kセンサーを搭載し、旗艦製品である「BSX-100」のUNICAM XEシリーズと同等の画質を実現する。山梨放送では、UHL-43は、2/3型雲台に搭載した。BSX-100は、3Uハーフラックサイズで軽量。実装スペースが限られた場所での運用に適する。アップコンバートによる4K出力やMOIP出力もオプションとして備えている。

山梨放送では、池上製のカメラや中継車を長期間利用する。スタジオ更新でも操作性や信頼性、耐久性が評価され、採用に至ったという。



プロンプターに設置された4K/HDマルチパーパスカメラ「UHL-43」



3G対応16ビットフルデジタルカメラシステム「HDK-97A」

# フォーラムエイトが発売 「車いすシミュレータ」 運転技術の評価が可能



伊藤社長と「車いすシミュレータ」(手前)

てVR空間を走行できる。運転者の運転技術の評価も可能だ。

フォーラムエイトの基礎となるUC-win/Roadは、陸・海・空で動く乗り物をシミュレーションしている。シミュレーションの動作は入力機器(ジョイスティックやハンドル)で操作する。また、VR空間を走行することで、VR上のモデルを運転することが可能。シミュレーションの終了時にはシミュレーション結果(シミュレーション経過時間、走行距離など)とシミュレーション中の記録(車いすの位置やジョイスティックのデータなど)を集約したテキストファイルが作成され、さらなる分析(運転評価)に活用することができる。

フォーラムエイトは、新製品の「車いすシミュレータ」(118万8000円)を発売した。新製品は、実際に車いすに座り、車いす自体は動かさず、モニターまたはヘッドマウントディスプレイ(HMD)を通して、VR空間を走行できる。運転者の運転技術の評価も可能だ。

フォーラムエイトの基礎となるUC-win/Roadは、陸・海・空で動く乗り物をシミュレーションしている。シミュレーションの動作は入力機器(ジョイスティックやハンドル)で操作する。また、VR空間を走行することで、VR上のモデルを運転することが可能。シミュレーションの終了時にはシミュレーション結果(シミュレーション経過時間、走行距離など)とシミュレーション中の記録(車いすの位置やジョイスティックのデータなど)を集約したテキストファイルが作成され、さらなる分析(運転評価)に活用することができる。

富士フィルムは18日、「GREEN DIGITAL説明会」を東京都港区のベクトルスタジオで開いた。

5G(第5世代移動通信方式)やDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進、4K・8Kなどの高解像度映像の普及などによって、世の中のデータ量は爆発的に増加している。同時に、デジタル領域におけるCO2の排出量も比例して急増している。

世界各国における最重要課題であるカーボンニュートラルの達成に向けて、より一層の対策の必

# デジタル領域のCO2排出問題 「LTOテープ」活用推進 富士フィルムが説明会開く



説明する武富氏

要性が指摘されている中、今後さらに肥大していくことが予測される「デジタル領域のCO2排出」問題は、各国が力を入れて取り組んでいくべき課題となっている。

そこで富士フィルムでは、大容量データを安全・安価に長期保管しながら積極的に活用することが求められる時代に、各企業が保管する膨大なデータ保存による消費電力によって排出されるCO2に着目し、ハードディスク、クラウドストレージ、(HDD)に比べて、データ保管時に発生するCO2の排出量を95%削減できる「LTOテープ」の活用を推進している。

武富氏は「IT社会の発展とともに世界中でデータセンターが多数設置され稼働しているが、24時間駆動が必要なHDDを多用するデータセンターのCO2排出量は膨大なものがある。この一部を当社が製造するLTOテープに置き換えれば、世界的なCO2削減が実現する。当社が推進していることを表

また、武富氏と立教大学ビジネススクールの田中道昭教授とのパネルディスカッションも開き、5G・DXなどの推進により、データ量は年平均28%の割合で増加すると予想される中、2050年のカーボンニュートラル達成に向け各企業が見落ししがちな「デジタル領域のCO2排出」問題についての議論を交わした。

「LTOテープ」の活用を推進している。武富氏は「IT社会の発展とともに世界中でデータセンターが多数設置され稼働しているが、24時間駆動が必要なHDDを多用するデータセンターのCO2排出量は膨大なものがある。この一部を当社が製造するLTOテープに置き換えれば、世界的なCO2削減が実現する。当社が推進していることを表

また、武富氏と立教大学ビジネススクールの田中道昭教授とのパネルディスカッションも開き、5G・DXなどの推進により、データ量は年平均28%の割合で増加すると予想される中、2050年のカーボンニュートラル達成に向け各企業が見落ししがちな「デジタル領域のCO2排出」問題についての議論を交わした。